

JA全厚連情報

(毎月 1日 発行)

No.1118 2022年8月1日

目 次

- 「厚生連の経営改善のための指針」の見直し検討等について協議
事業企画委員会 医療事業部門を開催 1
- 理事会制への組織改編にともない新体制が発足
第74回通常総会等を開催 2
- ・ **通信員だより**
 - 北海道美深養護高等学校の生徒による病院花壇の制作が行われました (美深厚生病院) 7
 - プランターに花の苗を植え、病院周辺のクリーンアップを行いました (湖東厚生病院) 9
 - ダイナミックフェア2022に救護班として参加 (JA茨城県厚生連) 10
 - グランドゴルフ大会に救護班派遣 (土浦協同病院なめがた地域医療センター) 11
 - 相模原北部緩和医療研究会を開催 (相模原協同病院) 12
 - 院内保育所にて野菜の苗植えを開催 (相模原協同病院) 13
 - ほほえみの丘 6月の行事食 (介護老人保健施設ほほえみの丘) 14
 - カーボンニュートラル賞を受賞しました (浅間南麓こもろ医療センター) 15
 - 令和4年度 幹部看護・介護職員育成研修会開催 (JA長野厚生連) 17
 - 長野県A・コープから歩行器を寄贈いただきました (JA長野厚生連) 19
 - 東海四県農村医学会を開催 (JA岐阜厚生連) 20
 - 空容器回収でエコ活動 (静岡厚生病院) 21
 - JAふじ伊豆で料理講座を開催 (JA静岡厚生連) 22
 - 静岡厚生病院産婦人科セミナーを開催 (静岡厚生病院) 23
 - 「たはら愛を漢字るドリル」をいただきました (渥美病院) 24
 - ISO15189に認定されました (海南病院) 25
 - 医療がひっ迫した沖縄県へ看護師を派遣しました (足助病院) 26
 - 敷地内の一部の除草を「ヤギ」が実施しています (豊田厚生病院) 27
 - ダヴィンチXiを導入し、第1症例を実施しました (江南厚生病院) 28
 - 医師の働き方改革に向けたキックオフセミナーを開催しました (JA三重厚生連) 29



全国厚生農業協同組合連合会

〒100-6827 東京都千代田区大手町 1-3-1 JAビル

TEL (03) 3212-8000 FAX (03) 3212-8008

E-Mail: shien@ja-zenkouren.or.jp

(経営支援グループ)

<http://www.ja-zenkouren.or.jp>

編集責任者 中村 純誠

「厚生連の経営改善のための指針」の 見直し検討等について協議

事業企画委員会 医療事業部門を開催

本会は7月6日に、東京・大手町のJAビルにおいて、事業企画委員会（医療事業部門）をWEB併催した。

協議・報告事項として、（1）新型コロナウイルス感染症にかかる対応、（2）厚生連の令和4年5月末経営収支状況、（3）令和4年度早期収支改善を要する厚生連への対応、（4）「厚生連の経営改善のための指針」の見直し検討、（5）改正個人情報保護法にかかる対応一等について検討を行った。

そのうち、（4）について、「厚生連の経営改善のための指針」と「早期収支改善スキーム」が並立しており、管理や運用において重複や複雑化が生じている等の課題があることから、令和5年度から統合すること等について協議した。

また、（5）について、令和4年4月に改正個人情報保護法が施行され、個人データの漏えい等のうち、一定の要件に該当する事案については報告が法令上の義務として明記されたことを受け、漏えい事案の報告対象等について協議した。

理事会制への組織改編にともない新体制が発足

第74回通常総会等を開催

本会は7月26日、東京・大手町のJAビル「401会議室」において第74回通常総会を開催した。

総会の開会にあたり、山野徹・経営管理委員会会長が挨拶をした後、来賓として、自民党議員連盟「農民の健康を創る会」の会長を務める森山裕・衆議院議員ならびに中家徹・JA全中代表理事会長より祝辞をいただいた。

引き続き議事に入り、第1号議案「令和3年度（第74年度）貸借対照表、損益計算書、剰余金処分案、注記表および事業報告の承認に関する件（案）」、第2号議案「理事の選任に関する件（案）」、第3号議案「令和4年度役員報酬に関する件（案）」、第4号議案「退任役員に対する役員退職慰労金の支出に関する件（案）」、第5号議案「事務所整備積立金規程の一部変更に関する件（案）」一を上程し、全会一致でいずれも承認された。

なお、本会は、通常総会の終了をもって経営管理委員会制から理事会制に組織改編することにともない、新たに理事を選任した。また、通常総会後の理事会において、山野徹代表理事会長、中瀬省副会長理事、中村純誠代表理事理事長が選任された。（役員体制は別表のとおり）

議事に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策にかかる特別決議文が採択され、患者数がコロナ禍前の水準に戻らない中、今後もJA厚生連が事業を安定的に継続できるように、補助金や医療行政の動向を注視しながら、JA厚生連と緊密に連携し、健全経営支援、制度対応支援および制度改正要望に、引き続き全力で取り組むことを決議した。



挨拶をする山野徹・経営管理委員会会長



祝辞を述べる森山裕・衆議院議員



祝辞を述べる中家徹・JA全中代表理事会長



総会の様子

(別表)

J A全厚連・新役員体制一覧

代表理事会長	やまの 山野	とおる 徹	(J A鹿児島県厚生連 経営管理委員会会長)
副会長理事	なかせ 中瀬	さとる 省	(J A北海道厚生連 代表理事会長)
代表理事理事長	なかむら 中村	じゅんせい 純誠	(学識経験者)
理事	かんの 管野	けいじ 啓二	(新任・J A福島厚生連 経営管理委員会会長)
理事	やぎおか 八木岡	つとむ 努	(J A茨城県厚生連 経営管理委員会会長)
理事	なかざわ 中澤	あきら 昭	(新任・J A山梨厚生連 代表理事会長)
理事	しんのう 神農	よしと 佳人	(新任・J A長野厚生連 経営管理委員会会長)
理事	いとう 伊藤	よしのり 能徳	(J A新潟厚生連 経営管理委員会会長)
理事	ほりお 堀尾	しげゆき 茂之	(J A岐阜厚生連 経営管理委員会会長)
理事	たにぐち 谷口	しゅんじ 俊二	(J A三重厚生連 経営管理委員会会長)
理事	たんげ 丹下	かずひろ 和博	(J A広島厚生連 経営管理委員会会長)
理事	かねこ 金子	みつお 光夫	(J A山口厚生連 経営管理委員会会長)
理事	ひさおか 久岡	たかし 隆	(J A高知厚生連 経営管理委員会会長)
理事	ふたがわ 二川	かずお 一男	(有識者)
理事	みうら 三浦	すすむ 進	(有識者)
監事	よしだ 吉田	さとし 聡	(全国新聞情報農業協同組合連合会 監事)
監事	さとう 佐藤	けいじ 佳二	(全国共済農業協同組合連合会 常勤監事)

特 別 決 議 文

J A厚生連は、保健・医療・高齢者福祉サービスの提供を通じて、安全・安心な地域社会の実現に取り組んでおり、新型コロナウイルス感染症への対応においても、ダイヤモンド・プリンセス号の感染者の受入れに始まり、コロナ患者の受入れ、ワクチン接種や沖縄県等への看護師派遣など、積極的に対応してきており、全国のJ Aグループおよび地域住民の皆様の評価も得たところである。

令和3年度の厚生連全体の医療事業損益は、コロナ患者の受入れが増加したにもかかわらず、前年度を大きく上回ったが、依然として外来・入院患者数がコロナ前の水準に戻っておらず、赤字を余儀なくされている。

しかしながら、J A厚生連では、前年度に引き続き、J Aグループからの支援をいただいたほか、事業面において、本会と一体となり国や自治体からの情報の収集・共有などにより補助金を獲得できた。

これにより、医療事業厚生連のすべてで、当期（最終）損益段階では黒字が確保でき、公的医療機関の使命である地域医療を守ることができた。

各厚生連の取組みならびに関係各位の支援に深く感謝申し上げます。

今後もJ A厚生連が事業を安定的に継続し、安全・安心な地域社会の実現に取り組む上では、補助金や医療行政の動向を注視する必要があり、特に、以下の3点が喫緊の課題となっている。

1. 新型コロナウイルス関連補助金の動向による経営への影響

- ・ 患者数がコロナ禍前の水準に戻らない懸念
- ・ 福祉医療機構の新型コロナウイルス対応支援資金の返済の負担（5年の据置期間後、10年返済）
- ・ 余裕病床を持たせても経営が成り立つ診療報酬の設定
- ・ 地域医療構想への対応（人口減少への対応、機能の分担と見直し等）
- ・ 物価高騰への懸念

2. 医師の偏在是正および医師の働き方改革

- ・ 大学による医師引揚げの懸念
- ・ 医師の業務の特殊性を踏まえた基準の緩和等（宿日直許可基準）

3. 看護職員等の処遇改善

- ・ 対象医療機関、対象職種が限定されている問題
- ・ 原資が診療報酬となれば財源の確実な担保に懸念
(診療報酬は、病院の職員数ではなく患者数に左右される)

本会は、これらの課題の解決のため、JA厚生連と緊密に連携し、JA厚生連が組合員・地域住民へ保健・医療・高齢者福祉サービスが提供できるよう、健全経営支援、制度対応支援および制度改正要望に、引き続き全力で取り組むことを誓い、ここに決議する。

令和4年7月26日

全国厚生農業協同組合連合会
第74回 通常総会



北海道美深養護高等学校の生徒による 病院花壇の制作が行われました

(JA北海道厚生連・美深厚生病院)

美深厚生病院（川合重久病院長）では、この度、町内に所在する北海道美深養護高等学校に正面玄関前などの花壇作りをお願いしました。

過去にも花の植え付けを依頼していましたが、コロナ禍の影響により、ここ数年は中止していたため、3年ぶりの実施となりました。

今年は設置場所を増やし、2学科の生徒に制作を依頼しました。農業科では、土起こし、計測、植え付けまでの作業を4日間にわたり実施してくれました。木工科では、学校名を表示するための看板を木目が美しい栓（せん）の木で制作してくれました。

最終日の5月23日には、農業科と木工科の生徒10名により作業を行い、その模様について新聞4社の記者やJA北はるかの広報担当者による取材を受けました。生徒の皆さんは、最初は緊張した面持ちで取材を受けていましたが、徐々に慣れると笑顔で質問や撮影に応じていました。

最後に、病院から生徒の皆さんに感謝の気持ちを伝え、先生、病院職員と一緒に記念撮影を行いました。

花壇の制作中には、患者さんが生徒に労いの声を掛けたり、生徒から患者さんに挨拶をしたりと、ちょっとした交流の場面も見られました。生徒の皆さんが協力して作った花壇は、見ると温かい気持ちになり、患者さんや私たち従業員に元気を与えてくれます。

当院は地域において人口減少と高齢化が進むなか、人員不足



整備された花壇



作業の様子

のため本会他病院より看護師等の応援を頂きながら、病院と併設する訪問看護とデイサービスにおいて、医療と介護を提供しています。

今後も、地域との交流により顔の見える関係（絆）を深めながら、地域において無くてはならない存在として、役割を果たしていきたいと思えます。

（吉田亜希通信員）

プランターに花の苗を植え、 病院周辺のクリーンアップを行いました

(JA秋田厚生連・湖東厚生病院)

湖東厚生病院（波多野善明病院長）では、梅雨入り前の晴れ間がのぞいた週末の夕方、昨年も患者さんに好評だった花苗の植え付けと病院周辺のクリーンアップを行いました。

日勤の勤務終了後に集まった職員およそ50名が手分けし、用意した40個のプランターにマリーゴールド、インパチェンスやベゴニアを植え付けると、正面玄関は一気に明るい雰囲気の様変わりしました。

どの職員も勤務を終えたばかりとはいえ、正面玄関の前に準備された色とりどりの花苗を前にすると、すぐに笑顔の輪が広がり、和やかな雰囲気の中で作業が進む様子が印象的でした。同時に、いくつかのグループに分かれて病院周辺に落ちていたゴミを拾うなど、敷地内の環境整備も実施しました。

コロナ禍でのこの2年余り、医療機関では、発熱等の症状がある患者さんの診療・対応に神経を使い続け、残念ながら、職員同士でも明るい話題に乏しく、息苦しさが付きまとうこともありました。

そうした中で、今回は短い時間ではありましたが、爽やかな空気の中で多くの職員が参加し、予定していた全ての作業が終了したあとは、お茶とお菓子が振るまわれ、リラックスした様子でした。

和気あいあいと患者さんを迎える準備をすることができたことは、またとないリフレッシュの機会になりました。



プランターに花の苗を植え付け

(三浦由佳通信員)

ダイナミックフェア2022に 救護班として参加

(JA茨城県厚生連)

JA茨城県厚生連(酒井義法・代表理事理事長)は、7月2・3の2日間、全農いばらき農機総合センター特設会場で開催された「農機・生産資材大展示会ダイナミックフェア2022」に救護班として参加しました。

例年は3月にスプリングフェア、7月にダイナミックフェアとして年2回開催されてきましたが、新型コロナウイルスの感染拡大によってスプリングフェアは中止となりました。

今回のダイナミックフェアは、全国的に感染状況が比較的落ち着いている時期での開催となりましたが、来場者及び関係スタッフの検温や手指消毒だけでなく、全身へ除菌液の噴霧など、感染予防対策の徹底が図られました。そのような観点から、今回の開催では本会も来場者の体調不良者や負傷者への対応のみとなりました。

猛暑の中での開催にもかかわらず、沢山の来場者が訪れフェアは大盛況となりました。

参加した看護師は、「非常に暑い中での開催となったが、以前のフェアのような賑わいが見られ、嬉しく思う。コロナ禍が終息した際は、健康相談や血管年齢測定を行い、フェアに訪れた方の予防医療と健康増進に貢献したい」と話しました。



ダイナミックフェア2022の様子と救護班のスタッフ

(酒井一彦通信員)

グランドゴルフ大会に救護班派遣

(JA茨城県厚生連・土浦協同病院なめがた地域医療センター)

土浦協同病院なめがた地域医療センター(清水純一病院長)では、7月に開催されたJAなめがたしおさい年金友の会グランドゴルフ大会に救護班として看護師を派遣しました。新型コロナウイルスの急速な感染拡大により開催が危ぶまれていましたが、3年ぶりの開催となった今大会は、猛暑にもかかわらず4地区合計約200人の年金友の会会員が参加し、傷病者もなく無事に大会を終えることができました。

看護師は「コロナ禍以前のイベントが復活してきて、いつもの日常が戻りつつある。元気いっぱいプレーする選手たちから力をいただいた。」と話しました。

JA茨城県厚生連(酒井義法・代表理事理事長)では、JAや地域の各種イベントに看護師等(救護班、健康相談など)を派遣しており、JAグループの一員として皆さまに安心して暮らしていただけるよう地域に根ざしたサポートをこれからも続けてまいります。



プレーを楽しむ選手たち

(酒井一彦通信員)

相模原北部緩和医療研究会を開催

(JA神奈川県厚生連・相模原協同病院)

令和4年6月15日に相模原協同病院（井關治和病院長）にて、相模原北部緩和医療研究会を開催しました。

今回は特別講演として北里大学病院集学的がん診療センター がん看護専門看護師 児玉美由紀先生に「ACPに取り組もう～大学病院での取り組みを中心に～」というテーマでご講演いただきました。

参加者は96名と大変盛況で、地域におけるこの領域への関心や問題意識の高さがうかがえました。



院長と緩和ケアチーム

(新嶋友梨恵通信員)

院内保育所にて野菜の苗植えを開催

(JA神奈川県厚生連・相模原協同病院)

相模原協同病院（井關治和病院長）院内保育所では、自然豊かな環境下にあることから、子ども達が自然に親しみ実体験を通して「食」に対する豊かな心を育てていくことを目的として「食育・栽培活動」を行っています。

栽培を通して不思議に思ったり、色々な変化に気付いたり、発見したりすること。それを友達や保護者に伝えること、収穫すること、家族と一緒に味わうこと（楽しい食卓）など子ども達の気持ちに寄り添いながら実体験を大切にしています。また、畑の先生としてJA相模原市職員の方々のご協力をいただいております。いろいろ手ほどきを受ける中でJA相模原市とのつながりを深めています。



野菜の苗植え



さつまいもの苗植え

(新嶋友梨恵通信員)

ほほえみの丘 6月の行事食

(JA神奈川県厚生連・介護老人保健施設ほほえみの丘)

介護老人保健施設ほほえみの丘(蒔田知美施設長)では、四季を楽しんでもらえるような行事食の提供を行っております。

6月の行事食では、和洋折衷豪華な「あじさい花見献立」を利用者さんへ提供させていただきました。ジメジメした今の時期にピッタリのさっぱりした味付けで、利用者さんからも好評でした。



6月の行事食「あじさい花見献立」

(新嶋友梨恵通信員)

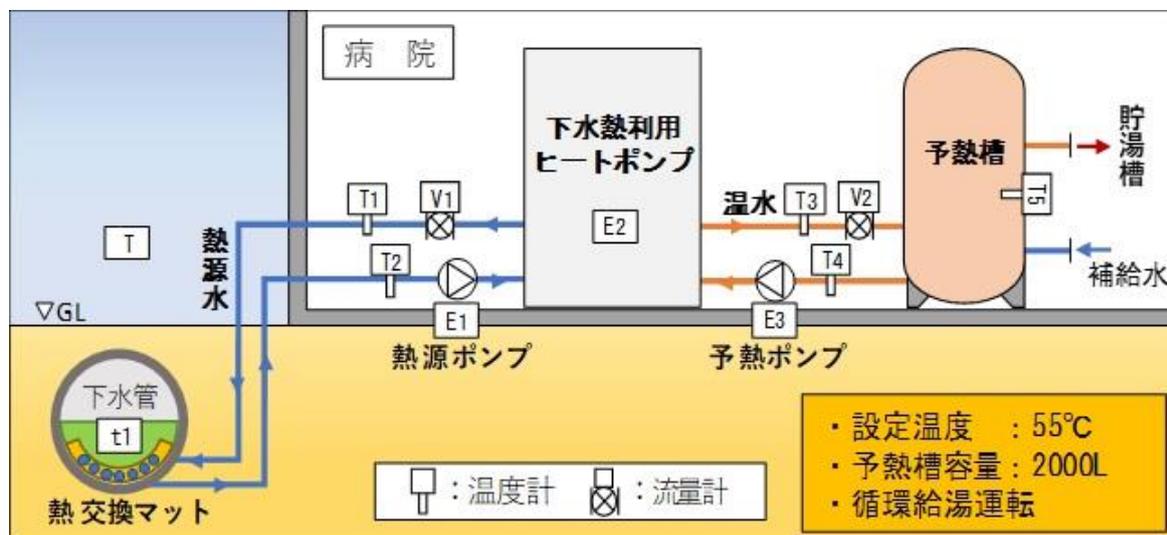
カーボンニュートラル賞を受賞しました

(JA長野厚生連・浅間南麓こもろ医療センター)

浅間南麓こもろ医療センター(橋本晋一病院長)では、このたび小諸市庁舎と当センターの再構築において、エネルギーを効率的に運用し低炭素を目指した事業が評価されました。これは、一般社団法人建築設備技術者協会が主催する表彰事業で、小諸市の取り組み「小諸市低炭素なまちづくり計画」を契機に、建物のエネルギー供給設備を運用管理する事業者(エネルギーサービス事業者)を公募し、小諸市庁舎と当センターでエネルギーを総合利用することなど、受賞の対象となりました。

国は「2050年までに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、すなわち2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」ことを宣言し、脱炭素-カーボンニュートラル化に向けて動き出しています。カーボンニュートラル賞は、国が目指すカーボンニュートラル化に資する建築設備として、省エネ・脱炭素燃料への取り組み・工夫、再生可能エネルギー利用・工夫、カーボンクレジットが評価されたものとなります。

省エネルギーの取り組みとして、当センターの病室には樹脂サッシ+Low-Eガラスを採用したことによる断熱効果、熱エネルギーは下図(※)のように下水管の熱交換マットから下水熱を採熱し利用することで、ガスや石油による燃焼方式に比べCO2排出量を削減しています。また、電力は市庁舎と一括受電することで契約電力量の低減になっています。



(※)

省エネルギーの取り組み

【受賞名】

2021年度：「第10回カーボンニュートラル賞」

「新エネ大賞（分散型エネルギー先進モデル部門）資源エネルギー長官賞」



表彰状

(山岸愛通信員)

令和4年度 幹部看護・介護職員育成研修会開催

(JA長野厚生連)

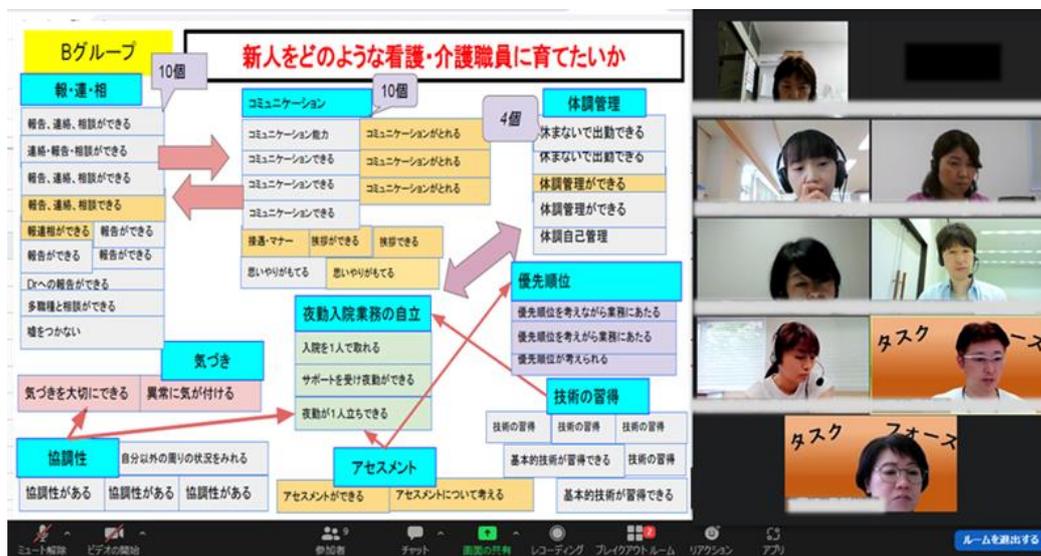
JA長野厚生連(洞和彦・代表理事理事長)は、6月29日～7月1日の3日間「幹部看護・介護職員育成研修会」を開催し、30名が参加しました。

この研修会は、JA長野厚生連の看護・介護の次世代を担うリーダー育成を目的とし、各事業所から期待をかけられた幹部候補の職員を対象に開催しています。研修参加職員は、研修を通じて学んだ知識を活かし、1年を通してそれぞれの職場にてリーダーシップを発揮しながら課題に対して客観的に分析し、改革に取り組みます。

新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、2年間は開催を見送っていましたが、今年度初めてZOOMを用いたオンライン形式で開催しました。研修の運営に携わるタスクフォース・事務局では、参加者がオンラインでの研修にスムーズに参加できるよう、当日を迎えるまで何度も打合せを重ねてきました。

ワークショップ形式で行う本研修会は、多くのグループワークの時間が設けられています。ZOOMの機能であるブレイクアウトルームを利用し、Googleスライド、スプレッドシート等のツールで意見を共有しながら行いました。

研修の主題は「新人教育」とし、「これまでの生涯でもっとも印象に残る教育体験」や「新人をどのような看護・介護職員に育てたいか」というテーマについて、グループごとで議論を交わしながら、新人教育に関するテーマを決定し、



グループワークの様子

それに沿う目標を立て、達成するための方略や、評価の手法について考えました。各グループから全体発表を行い、タスクフォースからの助言や参加者からの質問等、活発な意見交換がされました。

研修の中で、日本農村医学研究所の柳澤和也主任研究員による「体のメンテナンスについて」の講演もあり、日常生活の中に取り入れられる簡単なストレッチなどを実践し、リフレッシュの時間となりました。

慣れないパソコン操作に戸惑ったという声もありましたが、「教育、学習の目標、行動立案、評価の仕方について学びを深める事ができた」「初めて教わることも多く、普段話したことの無い仲間とたくさん意見交換できたことが新鮮であった」「さまざまな現場で働かれている方の意見が聞くことができよかった」と有意義な研修であったという声が多く聞かれました。



体のメンテナンス講義

(山岸愛通信員)

長野県A・コープから歩行器を寄贈いただきました

(JA長野厚生連)

JA長野厚生連（洞和彦・代表理事理事長）は7月14日、長野市のJA長野県ビルで歩行器の目録贈呈式を行いました。この取り組みは、株式会社長野県A・コープの誕生祭企画の「車椅子を贈ろう」募金の取組みのひとつとして、平成14年度から令和2年度までに当会施設へ63台の車椅子を寄贈いただいております。令和4年度については、佐久総合病院、佐久医療センター、小海分院の3施設へ歩行器を3台寄贈いただきました。

長野県A・コープの山崎進代表取締役社長は「本年は3体の歩行器を贈呈させていただきますが、どうか末永くご愛用頂ければと思います」と挨拶されました。また、洞和彦代表理事理事長は「患者さんにとっても家族にとっても必要な物品ですので、20年以上の長きにわたり厚生連の病院にお気遣い頂きまして本当にありがとうございます」とお礼の言葉を述べました。

いただいた歩行器は、医療・介護の各施設で、多くの方にご利用いただく予定です。



贈呈式の様子(右から山崎代表取締役社長、洞代表理事理事長)

(山岸愛通信員)

東海四県農村医学会を開催

(JA岐阜厚生連)

6月19日、岐阜市にて第59回東海四県農村医学会をYouTubeを利用したライブ配信にて開催しました。

この学会は、農村社会と地域の医療と保健に関する問題を調査研究し、その解決を図ることを目的に三重・愛知・静岡・岐阜の四県が持ち回りで開催しており、今回はJA岐阜厚生連飛騨医療センター・堀明洋センター長が学会長を務めました。

今学会はテーマを「病院における慢性期医療について」とし、名古屋鉄道健康保険組合名鉄病院・葛谷雅文病院長による「老年医学からみた慢性期医療」と題した特別講演、各県の慢性期医療にかかわる様々な取り組みについての事例発表および総合討論が行われました。

病院として、医療・介護の提供はもちろん、地域のコミュニティとしての役割、ハブ機能を果たしている等、地域貢献の新たな取り組みについて再確認できた学会となりました。

次回は来年、三重県で開催されます。



総合討論の様子

左から発表者(岐阜県・静岡県・愛知県・三重県)、堀学会長、葛谷名鉄病院長

(寺師史華通信員)

空容器回収でエコ活動

(JA静岡厚生連・静岡厚生病院)

JA静岡厚生連静岡厚生病院(水野伸一病院長)では、昨年度に続き、「ペットボトルキャップ」と「コンタクトレンズ空容器」を回収する『エコ活動』を実施しています。

静岡サレジオ高等学校の有志で活動しているグループ『チームi』に回収したコンタクトレンズ空容器を引き渡しました。

容器は、アイバンクへの寄付等につながります。

同院は院内に回収ボックスを設置し、引き続きペットボトルキャップとコンタクトレンズ空容器の回収を呼び掛けていきます。



エコ活動への取り組み

(望月俊宏通信員)

JAふじ伊豆で料理講座を開催

(JA静岡厚生連)

JAふじ伊豆は6月下旬、JA静岡厚生連（荒田庄治・代表理事理事長）の山友里管理栄養士を講師に、特産化を目指す調理用トマト「アイランドルビー」を使った料理講座を2日間にわたり熱海・伊東の各会場で開き、JA女性部員16名が参加しました。

料理講座で作った「アイランドルビー」を使った料理のレシピは、JAふじ伊豆ファーマーズマーケットいで湯っこ市場で、食材と共に紹介されています。

山口管理栄養士は「アイランドルビーは加熱によって鮮やかな赤色、濃厚な味が引き立ちます。ぜひ、レシピを手にとって作ってもらい、アイランドルビーの美味しさをたくさんの方に知ってもらえればと思います。」と話しました。



料理講座の様子



紹介されたレシピ

(望月俊宏通信員)

静岡厚生病院産婦人科セミナーを開催

(JA静岡厚生連・静岡厚生病院)

JA静岡厚生連静岡厚生病院(水野伸一病院長)は7月16日、静岡厚生病院講義室とウェブ配信にて産婦人科セミナーを開催しました。

地域住民とウェブからの閲覧者約40名が参加しました。

「10年先を見据えた健康増進を考えてみませんか?」をテーマに、女性の生理痛・更年期障害の問題や肩こりの改善について、産婦人科医師、作業療法士がそれぞれの分野から講演を行いました。

参加者は熱心にメモをとり、肩こり改善のストレッチを実践していました。



講演の様子

(望月俊宏通信員)

「たはら愛を漢字るドリル」をいただきました

(JA愛知厚生連・渥美病院)

6月上旬、渥美病院（吉田昌弘病院長）の広報誌を制作する共和印刷株式会社より「たはら愛を漢字るドリル（第三巻）」をいただきました。

読み書き訓練だけでなく地元ゆかりの歴史や地名が楽しめ、会話が自然と弾むので職員・利用者から大好評です。



第1巻(とよかわ ver.) 第2巻(とよはし ver.) もいただいております、人気のドリルになっています！

(井桁千聡通信員)

ISO15189 に認定されました

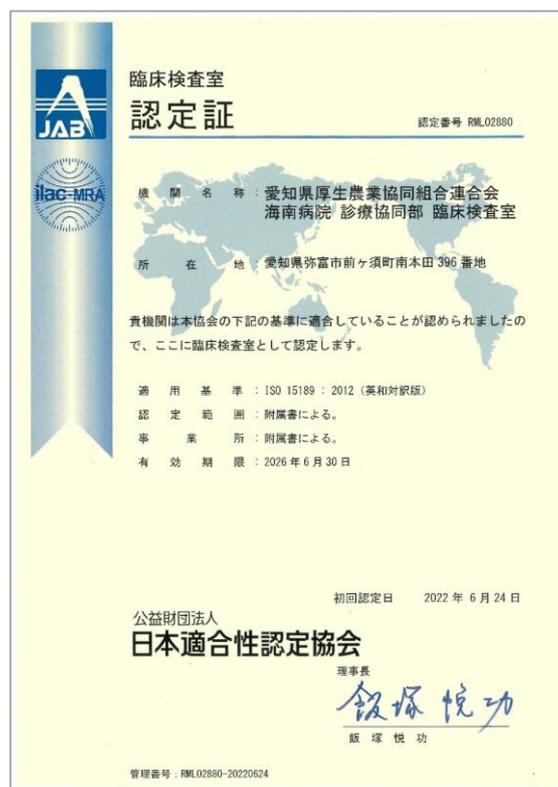
(JA愛知厚生連・海南病院)

海南病院（奥村明彦病院長）では6月24日、臨床検査室の品質と能力に関する国際規格「ISO15189」の認定を受けました。

海部地区では初、JA愛知厚生連（宇野修二・代表理事理事長）では4番目の認定となります。国際的に認められた仕組みに基づき運営し、検査結果に対する信頼性が向上します。今後もより一層の品質管理・技術向上に努めていきます。



2月の受審時の様子



ISO 認定証

(井桁千聡通信員)

医療がひっ迫した沖縄県へ 看護師を派遣しました

(JA愛知厚生連・足助病院)

足助病院（小林真哉病院長）では、6月6日～19日、厚生労働省からの要請を受け、5月に新型コロナウイルスの新規感染者が過去最多となり医療がひっ迫した沖縄県に看護師2名を派遣しました。第6波の対応（沖縄県・大阪府派遣）に続く3回目の派遣となりました。



6月2日に行われた壮行会の様子



派遣先の病院で感謝状と記念品をいただきました

(井桁千聡通信員)

敷地内の一部の除草を「ヤギ」が実施しています

(JA愛知厚生連・豊田厚生病院)

豊田厚生病院（服部直樹病院長）では6月8日より、敷地内の一部で機械式草刈り機を使用した人力による除草から環境負担の少ない「ヤギ」による除草を実施しています。

除草だけでなく、病院に来院される方や職員・看護学生・保育所の子どもたちまで多くの方の癒しとなっています。



ヤギ3頭を10月末までレンタル中です！
ヤギ達の名前はInstagramの投票で決定しました



院内保育所の園児たち



看護学生に人気のヤギ

(井桁千聡通信員)

ダヴィンチ Xi を導入し、第 1 症例を実施しました

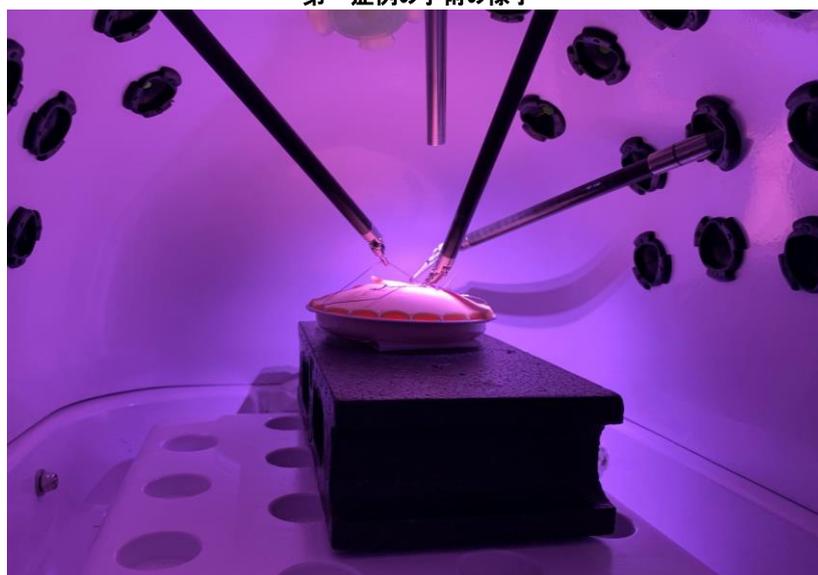
(JA愛知厚生連・江南厚生病院)

江南厚生病院（河野彰夫病院長）では、内視鏡手術支援ロボットの最新機種「ダヴィンチ Xi」を導入し、6月30日に第一症例（外科）を実施しました。

今後も愛知県がん診療拠点病院として、患者さんそれぞれの病態にあった最適な手術を提供していきます。



第一症例の手術の様子



操作訓練における模擬体内の様子

(井桁千聡通信員)

医師の働き方改革に向けたキックオフセミナーを開催しました

(JA三重厚生連)

JA三重厚生連（庄山隆裕・代表理事理事長）では、医師の時間外労働上限規制を踏まえた働き方改革に向け、キックオフセミナーを令和4年6月23日にJA三重ビルでの集合研修と、各事業所をWEBで結んで開催し、院長、事務部長ほか管理職と医師を中心に66名が参加しました。



キックオフセミナー会場

三重県医療勤務環境改善支援センターから医療労務管理アドバイザーを講師に迎え、制度の概要、医療機関

に求められる対応ポイントの解説、労働時間短縮に向けた取組み事例や、タスク・シフト/シェアの具体例を踏まえ講義いただきました。

参加者からは「タスク・シフト/シェアの重要性を認識した」という意見や、「労働時間短縮に向けた、具体的な対策の困難さを痛感した」、「地域における医療提供体制との兼ね合いをどう考えるか」といった意見が寄せられました。

各事業所における機能の違い、診療科ごとの特性を踏まえ、対応方針を検討するきっかけになりました。

医師の時間外労働上限規制法律施行を踏まえた取組について 勤務環境改善の好事例とポイントの紹介



令和4年6月23日
JAビル5階大会議室

三重県医療勤務環境改善支援センター
医療労務管理アドバイザー

キックオフセミナー表紙

(教来石信彦通信員)